

現代の公共建築におけるプロセスデザインの可能性 —陸前高田統合中学校の設計プロセスから—

宇野研究室

4110011 上田 啓司

1. 研究背景、目的

近年、公共建築において住民参加型の提案が多くの場合で見られるようになった。それは単に、行政や役所が住民の賛同を得るためのものではなく、建築の可能性をより引き出すための積極的な手法として考えられる。一方で、その手法のねらいや意図を汲み取れず、形骸化を招いている場合や、被災地のような特殊な場所ではその手法の必要性さえ理解されていない場合も多く見られる。

本研究では、不特定多数のユーザーの設計プロセス参加を導入した公共建築作品、また、自らが設計プロセスに参加した陸前高田「高田東統合中学校」を分析、類型化し、被災地における住民参加型ワークショップのプロセスを明らかにすることで、現代の公共建築におけるプロセスデザインの可能性を探る。

2. 研究対象

研究対象は、2003-2013 年までの「日経アーキテクチュア」に掲載された不特定多数のユーザーの設計プロセス参加を導入した公共建築 29 事例から、情報が得られるものを 8 事例、また、復興建築として先端を走り、自らが設計プロセスに参加した陸前高田「高田東統合中学校」を対象とした。

3. 研究方法

- ①:「日経アーキテクチュア」から抽出した 8 事例の分析
- ②: 陸前高田「高田東統合中学校」の分析
- ③:①②の結果を基に、現代の公共建築におけるプロセスデザインの可能性を考察する。

3. プロセスデザイン-公共建築作品から

公共建築作品の資料より、設計プロセスにおける WS の形式と成果（表 1）を抽出し類型化することで、プロセスデザインの手法を考察する。

3-1. 分析表の作成

資料を基に、建築名、設計者、用途、竣工年月、設計プロセスを表にし、分析をする。（表 2）

▼表 2 公共建築作品分析表

01	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>01. 町民文化創造センター</td><td>設 計 者</td><td>香山南建築研究所</td><td>用 途</td><td>音楽ホール</td><td>竣工年月</td><td>2002.7</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>資料より、WSとは別に委員会を数回に渡って開いていることがわかる。これより、表舞台であるWSでは、様々な手法を用いて意見交換や普及活動を中心に行われていることがわかった。</td></tr> </table>	建 築 名	01. 町民文化創造センター	設 計 者	香山南建築研究所	用 途	音楽ホール	竣工年月	2002.7	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	資料より、WSとは別に委員会を数回に渡って開いていることがわかる。これより、表舞台であるWSでは、様々な手法を用いて意見交換や普及活動を中心に行われていることがわかった。
建 築 名	01. 町民文化創造センター	設 計 者	香山南建築研究所	用 途	音楽ホール	竣工年月	2002.7																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	資料より、WSとは別に委員会を数回に渡って開いていることがわかる。これより、表舞台であるWSでは、様々な手法を用いて意見交換や普及活動を中心に行われていることがわかった。																																										
02	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>02. 山形県立山形幼稚園</td><td>設 計 者</td><td>豊建築設計事務所</td><td>用 途</td><td>幼稚園</td><td>竣工年月</td><td>2003.4</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>資料より、日常的に対話を重ねることで一貫した意図が形成できたとわかる。このことから、基本設計中の一部のWSでの対話による参加型<会量>の意識合いが窺いこえることがわかった。</td></tr> </table>	建 築 名	02. 山形県立山形幼稚園	設 計 者	豊建築設計事務所	用 途	幼稚園	竣工年月	2003.4	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	資料より、日常的に対話を重ねることで一貫した意図が形成できたとわかる。このことから、基本設計中の一部のWSでの対話による参加型<会量>の意識合いが窺いこえることがわかった。
建 築 名	02. 山形県立山形幼稚園	設 計 者	豊建築設計事務所	用 途	幼稚園	竣工年月	2003.4																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	資料より、日常的に対話を重ねることで一貫した意図が形成できたとわかる。このことから、基本設計中の一部のWSでの対話による参加型<会量>の意識合いが窺いこえることがわかった。																																										
	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>03. 神奈川町中里村合同庁舎</td><td>設 計 者</td><td>早稲田大学総合研究所+NASCA</td><td>用 途</td><td>庁 舎</td><td>竣工年月</td><td>2003.4</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>小中学生を対象に、各期間毎にイベント型WSを行う。これは施設の使用方を学ばせると同時に、建築ができていく過程を体験させることで、参加者に愛着が生まれることを狙っている。</td></tr> </table>	建 築 名	03. 神奈川町中里村合同庁舎	設 計 者	早稲田大学総合研究所+NASCA	用 途	庁 舎	竣工年月	2003.4	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	小中学生を対象に、各期間毎にイベント型WSを行う。これは施設の使用方を学ばせると同時に、建築ができていく過程を体験させることで、参加者に愛着が生まれることを狙っている。
建 築 名	03. 神奈川町中里村合同庁舎	設 計 者	早稲田大学総合研究所+NASCA	用 途	庁 舎	竣工年月	2003.4																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	小中学生を対象に、各期間毎にイベント型WSを行う。これは施設の使用方を学ばせると同時に、建築ができていく過程を体験させることで、参加者に愛着が生まれることを狙っている。																																										
04	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>04. 南部総合福祉センター</td><td>設 計 者</td><td>佐藤総合設計</td><td>用 途</td><td>複合施設</td><td>竣工年月</td><td>2003.8</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>実施設計段階に「形」を成果とするWSは珍しい。実施設計途中で計画に変更があった。</td></tr> </table>	建 築 名	04. 南部総合福祉センター	設 計 者	佐藤総合設計	用 途	複合施設	竣工年月	2003.8	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	実施設計段階に「形」を成果とするWSは珍しい。実施設計途中で計画に変更があった。
建 築 名	04. 南部総合福祉センター	設 計 者	佐藤総合設計	用 途	複合施設	竣工年月	2003.8																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	実施設計段階に「形」を成果とするWSは珍しい。実施設計途中で計画に変更があった。																																										

05	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>05. 高崎市立松山小学校</td><td>設 計 者</td><td>STUDIO NASCA</td><td>用 途</td><td>小 学 校</td><td>竣工年月</td><td>2009.3</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>WSは、教職員、児童、保護者を中心にイベントや空間体験を通して、使用方を考えるために用いられている。</td></tr> </table>	建 築 名	05. 高崎市立松山小学校	設 計 者	STUDIO NASCA	用 途	小 学 校	竣工年月	2009.3	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	WSは、教職員、児童、保護者を中心にイベントや空間体験を通して、使用方を考えるために用いられている。
建 築 名	05. 高崎市立松山小学校	設 計 者	STUDIO NASCA	用 途	小 学 校	竣工年月	2009.3																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	WSは、教職員、児童、保護者を中心にイベントや空間体験を通して、使用方を考えるために用いられている。																																										
06	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>06. 新潟県新潟市東区新井地区公民館</td><td>設 計 者</td><td>新潟県立大学建築設計事務所</td><td>用 途</td><td>新 公 館</td><td>竣工年月</td><td>2009.9</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>基本設計から運営まで、長期に渡ってグループワークを中心としたWSを行っている。資料によると各期間毎にテーマがあり、それに対して毎回同じ手順でWSを行っていることがわかる。</td></tr> </table>	建 築 名	06. 新潟県新潟市東区新井地区公民館	設 計 者	新潟県立大学建築設計事務所	用 途	新 公 館	竣工年月	2009.9	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	基本設計から運営まで、長期に渡ってグループワークを中心としたWSを行っている。資料によると各期間毎にテーマがあり、それに対して毎回同じ手順でWSを行っていることがわかる。
建 築 名	06. 新潟県新潟市東区新井地区公民館	設 計 者	新潟県立大学建築設計事務所	用 途	新 公 館	竣工年月	2009.9																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	基本設計から運営まで、長期に渡ってグループワークを中心としたWSを行っている。資料によると各期間毎にテーマがあり、それに対して毎回同じ手順でWSを行っていることがわかる。																																										
07	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>07. 宇土市立宇土小学校</td><td>設 計 者</td><td>シラカクデザイン/アソシエツ</td><td>用 途</td><td>小 学 校</td><td>竣工年月</td><td>2011.7</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>事前にアンケートを用いて、計画に対する大きな問題を解決したあと、対話を中心としたWSで「形」にしている。この手法は、議論の場を批判的なものにするのを防いでいることが考えられる。</td></tr> </table>	建 築 名	07. 宇土市立宇土小学校	設 計 者	シラカクデザイン/アソシエツ	用 途	小 学 校	竣工年月	2011.7	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	事前にアンケートを用いて、計画に対する大きな問題を解決したあと、対話を中心としたWSで「形」にしている。この手法は、議論の場を批判的なものにするのを防いでいることが考えられる。
建 築 名	07. 宇土市立宇土小学校	設 計 者	シラカクデザイン/アソシエツ	用 途	小 学 校	竣工年月	2011.7																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	事前にアンケートを用いて、計画に対する大きな問題を解決したあと、対話を中心としたWSで「形」にしている。この手法は、議論の場を批判的なものにするのを防いでいることが考えられる。																																										
08	<table> <tr> <th>建 築 名</th><td>08. 町田市新庁舎</td><td>設 計 者</td><td>横山総合事務所</td><td>用 途</td><td>市 庁 舎</td><td>竣工年月</td><td>2012.6</td></tr> <tr> <th>WSスタイル</th><td colspan="7"> 〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕 </td></tr> <tr> <td>〔運営+ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔設計者〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>〔ユーザー〕</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table> <tr> <th>分 析</th><td>基本設計中に「グループワーク」を中心としたWSを複数回集約的にしている。参加者自ら「コンセプト」から「形」に落とし込んでいく作業を行っている。</td></tr> </table>	建 築 名	08. 町田市新庁舎	設 計 者	横山総合事務所	用 途	市 庁 舎	竣工年月	2012.6	WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕							〔運営+ユーザー〕								〔設計者〕								〔ユーザー〕								分 析	基本設計中に「グループワーク」を中心としたWSを複数回集約的にしている。参加者自ら「コンセプト」から「形」に落とし込んでいく作業を行っている。
建 築 名	08. 町田市新庁舎	設 計 者	横山総合事務所	用 途	市 庁 舎	竣工年月	2012.6																																				
WSスタイル	〔準備期間〕 〔基本設計〕 〔実施設計〕 〔施 工〕 〔運 営〕																																										
〔運営+ユーザー〕																																											
〔設計者〕																																											
〔ユーザー〕																																											
分 析	基本設計中に「グループワーク」を中心としたWSを複数回集約的にしている。参加者自ら「コンセプト」から「形」に落とし込んでいく作業を行っている。																																										

▼表 1 WS の＜形式＞と＜成果＞の分類表

形式	A	アンケート	B	説明会	G	グループワーク	E	イベント	F	フィールドワーク
	H	ヒアリング	W	制作	St	勉強会	Sp	空間体験		
成果		リサーチ	■	コンセプト	▨	形	▩	使い方	▧	運営
	▨	施工	▦	モチベーション	▤	理解				

3-2. WS 形式の分類

作成した分析表を基に WS 形式の類型化を行うと、以下の 5 つのタイプに分類できる。

タイプⅠ (02) …一回の WS で、合意形成を行う手法。WS の形式は＜対話＞による参加で成果としては＜形＞に反映しているが、合意形成の意味合いが強い。

タイプⅡ (04、07、08) …基本設計中に集中して WS を行う手法。形式は基本的に＜対話＞と＜グループワーク＞によって行われている。(No. 07) は本格的に WS を始める前に＜アンケート＞を用いて情報収集をし、それを設計へ反映しているのが予想できる。これは WS を批判的な議論の場にしないために有効であると考えられる。また (No. 04) は実施設計中、住民によりあるプログラムへの反対があり、計画を変更するためやむなく実施設計中に＜形＞へおとす＜グループワーク＞を行っているため、基本的にはタイプⅡに分類されると考えられる。

タイプⅢ (03、05) …＜使い方＞を理解してもらうことを中心に行う手法。＜制作＞・＜空間体験＞・＜イベント＞の形式を用いた体験型 WS で、楽しみながら＜使い方＞を理解してもらうことができる。

タイプⅣ (01) …コアメンバーによる委員会を設置し継続的な話し合いをする手法。表向きの WS では、地域住民に対して理解・合意を得ることを主な目的として行われている。

タイプⅤ (06) …基本設計から運営まで継続的に＜グループワーク＞を行っている手法。回数を重ねていて、一見複雑に見えるが、資料から期間毎に話し合うテーマを変えて同じ手順で議論していることがわかった。

4. プロセスデザイン-高田東統合中学校から

資料、体験、設計者へのインタビューを基に、具体的にプロセスデザインの手法を考察する。

4-1. 陸前高田市の現状

陸前高田市は震災により、被災地の中でも特に大きな被害を受けた。津波により街が流され、二年半経った現在でも、土地造成を行っている途中である。また、震災による様々な要因が重なり、他の自治体に比べて公共施設の工事発注予定数が著しく少ない。平成28年度に向けて他の自治体の復興が進む中、陸前高田だけ取り残され、地域間格差が広がることが目に見えている状況である。

4-2. 設計プロセスの分析

高田東統合中学校の設計プロセスを、資料と自らの体験、設計者へのインタビューより明らかにする。また、各WS毎に出た意見を<基本の強化>、<修正、追加>、<詳細>(表3)に分類することで、設計プロセスの中での各WSの位置づけを分析する。(表4)

分析表を基に考察を行った結果、以下の三つが明らかになった。

①手法と目的…設計プロセスの中で設計者が用いるツールが抽象的なものから具体的なものに変えていく、それと同時に、参加者の意見内容が<基本の強化>から<詳細>へ、マクロな視点からミクロな視点に変わってきているのがわかる。これは、設計者の手法と目的が成果と一致しているということである。

②設計プロセス(部分)…第一回WSの設計プロセス(部分)に着目すると、事前にヒアリング等を行っている。これは、設計者へのインタビューより事前に意見徴収を行い、大きな問題を解決し、WSが批判的な議論の場となることを

防ぐために行われていたことがわかった。意見内容にこの施設に対する批判的な意見が少なかったことから、この手法が正しいことがわかる。

③設計プロセス(全体)…各設計プロセス(部分)から設計プロセスの全体像(図1)を俯瞰して見ると、WSは単体で機能しているわけではなく、その前後にある出来事と関係していることがわかる。これはWSの本質が、WSだけでなく前後にある出来事も含めたプロセスにあり、WSはそのきっかけにすぎないことがわかる。

5. 結論

本研究によって、次の四つのことが明らかになった。

- ・住民参加型の提案は5タイプに分類でき、手法が確立している。
- ・高田東中学校は、タイプⅡに分類することができ、被災地ならではのプロセスデザインの手法はみられず、まだ確立されていない。
- ・設計プロセスにおいて、住民参加型の提案におけるWSという出来事は「きっかけ」でしかなく、その前後にある様々な出来事と関係することで、はじめて機能する。
- ・陸前高田市は、他の自治体に比べて復興が進まない中、一つの公共建築建設における期待と不安は大きい。公共建築に住民参加の手法を用いることで、それを和らげ、また励みとなるという点から陸前高田における住民参加型の提案は有効である。

6. 展望

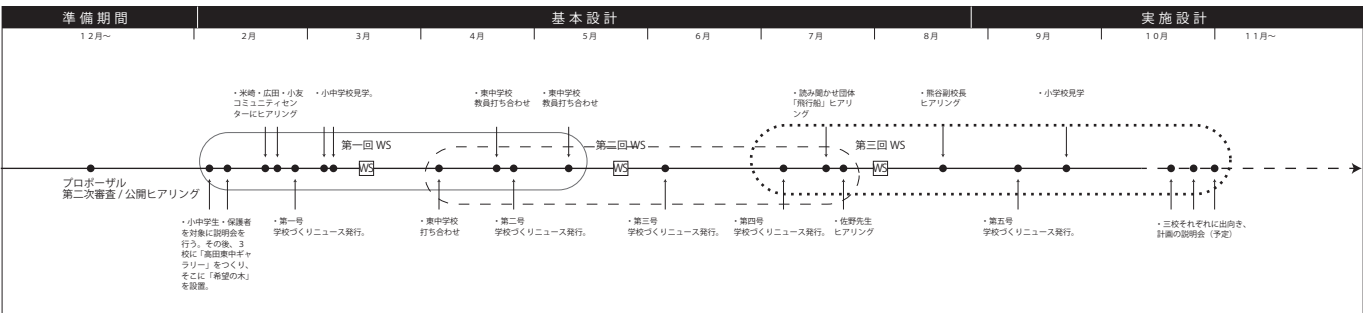
本研究では、被災地におけるプロセスデザインの手法がまだ確立されていないことを明らかにした。しかし、特殊な場所である被災地において、新たな手法を確立することは必須であると考えます。本論を、今後新たな手法が確立するための手掛かりとしたい。

▼表3 意見分類表

記号	説明
	基本の強化 設計の基本を強化するような新しい発想 ・「図書館を地域解放してほしい」等
	修正、追加 機能の縮小、増加、追加、配置 ・「家庭科準備室を大きくしてほしい」等
	詳細 部屋の備品や運営管理の詳細 ・「後ろ黒板がほしい」等
	WSが影響を受ける。
	WSが影響を与える。

▼表4 高田東中学校 WS 分析表

WS	概要	参加者	ツール	意見分類 (%)	設計プロセス(部分)
第一回WS	B : グループワーク ①「高田東中 希望の木」の結果発表 ②地域の人々たちも使える中学校の紹介 ③計画の説明 ④グループワーク ⑤まとめ	協議会 (24名) 小中学生 (17名) その他 (6名)	図面	9.1 50.3 40.6	▲説明会、「希望の木」開催 ▲高田東中学校 打ち合わせ
第二回WS	B : グループワーク ①計画の説明 ②グループワーク ③まとめ	大人 (26名) 小中学生 (20名)	図面 模型	4.9 47.1 48.0	▼高田東中学校教員打ち合わせ ▲読み聞かせ団体「飛行船」ヒアリング ▲希望の木から実りの木へ ▲第四号 学校づくりニュース発行、ヒアリング
第三回WS	Sp : 空間体験 ①ワークショップの説明 ②グループワーク ③まとめ	教職員 (5名) 小中学生 (10名) 保護者 (4名) 地域住民 (1名) その他 (2名)	図面 模型 1/1 空間	1.4 34.8 63.8	▼読み聞かせ団体「飛行船」ヒアリング ▼熊谷副校長 ヒアリング ▲佐野先生 ヒアリング ▲第五号 学校づくりニュース発行



▲図1 設計プロセス(全体像)

参考文献: 1) 日経アーキテクチュア (2003-2013)/ 日経 BP 社 2) SALHAUS 参考文献: 1) 「現代の公共建築におけるユーザー参加型のプロセスデザイン」/ 土岐文乃、貝島桃代、志村真紀、一ノ瀬彩、野田直樹 2) 「市民参加型公共建築の計画手法に関する研究 (1)~156 の事例による参加の手法と段階の傾向~」/ 土肥千恵、増田智恵美、志村秀明